

草のみどり

Kusa no Midori



FRONT LINE 文学部
就職活動で発揮される文学部のチカラ!



世界を人に動かす Vol. 20

企業経営とグローバル経済の先端知識、優れたコミュニケーション能力を養うべく、国際経営学部生は前進を続けています。

経験から得た学びを活かして、 学部に貢献したい

国際経営学部国際経営学科4年／私立青稜高等学校（東京都）出身

庄原 八雲
しゅうはら やくも

国際経営学部で統計を学ぶ必要はあるのでしょうか。数学が得意ではない学生も多い中、ギリシャ文字でできた数式を英語で勉強することは負担だと感じてもおかしくありません。しかし、私が交流してきた学生のほとんどは統計学に興味を持っており、マーケティングやビジネスだけでなく、幅広い分野に応用できる有益な学問というイメージを持っています。とはいえ統計学を勉強することにはハードルを感じ、一步を踏み出せない人が多かったように思います。

そこで私は、統計学やデータ分析の学習をサポートする BeRuga という団体を立ち上げました。2022年の後期には1年生の経営統計入門の授業でチューターとして採用いただき、週2回、団体メンバーによるオフィスアワーも開催してきました。ここには延べ200人以上の学生に参加いただき、私にとっても非常に有意義な活動ができたと感じています。今回は、国際経営学部生や読者の皆さま

まに、私が経験を通じて感じた文理の壁を超えて勉強することの意義をお伝えできればと思います。寄稿させていただきました。

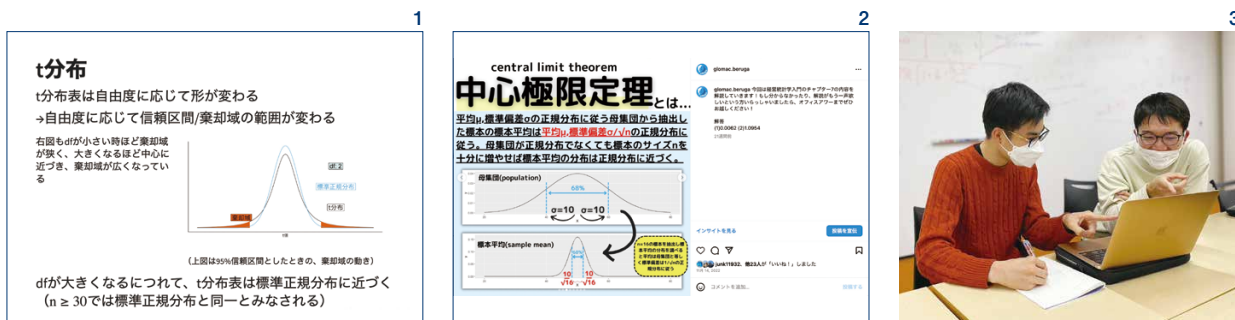
団体を立ち上げた経緯

私は、統計学やマーケティングの知識を活かしながら、自身でもプログラミング技術を駆使して手分析を進めるデータサイエンティストに憧れ、少しでもこれに近づくことを在学中の目標にしています。2年次の後期からは、データ分析について学ぶ中野純司先生のゼミに所属し、学外では顧客のデータ分析に携われる長期インターンを始めました。すると、学部内では統計学やデータ分析を勉強している学生が多くなかったため、さまざまな人から統計科目の相談や質問を受けるようになりました。同時に、ほとんどの人が統計学に興味を持っていても、勉強することについては「難しい」とか「自分にはできない」と思っていることを肌で感じ、これは学部の課題であると痛感

しました。そこで、自分が少しでも役に立てればと思い、「統計学やデータ分析へのアレルギーを持ったまま、国際経営学部生を卒業させない」というコンセプトのもと、私を含めた3人のメンバーで立ち上げたのが BeRuga という団体でした。当初は活動内容を考えることに苦戦し、あまり精力的に活動できない期間が続きましたが、事務室の方からお声掛けいただいたこともあり、授業のチューターを任せていただけるようになった次第です。

経験を通じて感じた、 文系がデータ分析を学ぶ意味

当初は学部の役に立ちたいという気持ちだけで始めた活動でしたが、長期インターンやゼミでの活動を経て、統計やデータ分析を勉強する必要性についても考えるようになり、これを伝えていくことでより学部に貢献できるのではと思うようになりました。そのきっかけは、ゼミの活動として参加したデータ分析のこ



1 期末対策講座に向け作成した資料 2 授業内容を解説する Instagram の投稿 3 チューター活動の様子

終わりに

ンペティションでした。

このコンペでは、各チームに与えられた同一のデータをそれぞれの視点から分析し、そこから得た情報をもとに施策の提案などを行い、競います。この中であるチームはAIを使った分析をしていましたが、「AIの使用目的」や「施策」が不明瞭であったとコメントされていました。つまり、分析手法が高度でも分析目的が定まっていなと有意義な結論は出せないのです。その逆も同様で、マーケティングの知識に長けていたとしても、分析などによる数字的な根拠がないままでは説得力もなく、妄想に近いような結論になってしまいます。

国際経営学部には、国際的に多様性のあるチームのマネジメントや海外への事業展開など、プロジェクトを主導していくための科目が多く設定されています。特にマーケティングに関わる際には、どのような分析手法があり、それにより何がわかるのかを知っておくと指示の選択の幅が広がり、多様な視点から物事を観察できるようにになります。自身で分析するための知識ではなく、プロに指示を出し対等に会話するための教養としてデータ分析を学んでおくことは、多くの国際経営学部生にとって必要なのではないでしょうか。

国際経営学部だより

国際的視野を身につけよう

経済のグローバル化とリージョナル化が21世紀の主流です。その流れに対応して設置された国際経営学部は、「グローバル共生社会における企業活動を担い、国際社会を舞台に活躍できる世界基準のビジネスリーダーへ」を目標としています。そのため、私が担当している次の科目はその目標達成の一端となっています。

「国際直接投資論」では、先進国および近年途上国の対外直接投資の推移と構造を述べ、国際直接投資の担い手としての多国籍企業の基本特徴と行動様式を考察します。また、国際直接投資の基礎理論を紹介し、国際直接投資の世界経済、国際貿易およびホスト国と受入国経済発展へのインパクトを分析します。

「国際貿易政策論」では、自由貿易主義と保護貿易主義の立場を紹介し、国際貿易政策の基本的なツールとその効果を説明します。また、国際貿易政策と国内産業政策及び所得分配政策との関連性も考察します。そして、GATT/

WTOの仕組みや多角的貿易交渉の歩みを述べ、地域的経済統合の現状、効果とその問題点を分析します。

「中国経済論」では、中国のマクロ経済の現況、農村社会の変遷、産業と企業の発展などを紹介し、1978年からの中国経済の市場化と国際化の背景、プロセスと成果を分析するうえで直面している問題点を指摘し、中国経済・社会の将来を展望します。

「専門演習」では、国際経済学の基礎的な理論と分析手法を習い、世界経済変動のメカニズムを理解させることを目的とします。また、習得した知識をもって世界経済の動向を正確に分析できるようになることを目標とします。

この4年間の実践を通じて、学生は国際的視野をある程度身につけ、世界経済の昨今、国際貿易・国際金融・国際直接投資の基礎的な理論と実践への理解力と現状分析の基礎力を高められるようになっています。

国際経営学部教授 **陳 建安**

これまでのBerugaの活動は1年生がメインで、対象者が限定的になってしまっていたと感じています。本年度からは、国際経営学部を卒業していくすべての学生のキャリアや仕事に少しでも貢献できるような活動をめざし、卒業までの残り1年尽力していきたいと思っています。

今までの活動に精力的に協力してくれたメンバーをはじめ、授業だけでなくBerugaの活動を支援してくださっている先生方や、チューターの機会を与えてくださった事務室の方、また日頃から生活を支えてくれている家族にこの場を借りて感謝申し上げます。